

## 平成25年度 第1回愛知県生涯学習審議会社会教育分科会会議録

### 1 開催期日

平成25年8月23日（金） 15時50分から16時50分まで

### 2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

### 3 出席した委員の氏名 7名

足立 誠、加来正晴、志村貴子、鈴木照美、広沢憲治、松田武雄（分科会長）、  
山田久子

### 4 欠席した委員の氏名 2名

恩田やす恵、和田典之

### 5 会議に付した事項

#### ○ 議事

- (1) 今後の青少年を支える社会教育について
- (2) その他

### 6 議事の経過

#### ○ 会議録署名人の指名

分科会長から足立委員と加来委員を署名人に指名

#### ○ 今後の青少年を支える社会教育について

事務局から資料により説明

これに対する各委員からの意見は別紙のとおり

#### ○ その他

特になし

## 【今後の青少年を支える社会教育について】

### 〈各委員の意見要旨〉

- 子どもが中学校くらいまでは講演会や行事を知る機会が多かったが、高校生以上になると情報をどこから得たらよいか。

→事務局：「学びネットあいち」やインターネットになるのではないか。

- なかなか青年は社会教育関係の情報を得ることが難しい。  
また、働いている青年は、仕事で忙しいのでなかなかネットで検索しようという気も起きにくいので、どのようにアプローチしていくかは大きな課題だと思う。

- 学校は不登校が多く、数字としてはっきり減少という形で現れてこない。  
そのような中で、家庭教育コーディネーター及びホームフレンド設置事業は、大変好評である。家庭教育コーディネーターは小中学校教員OBがやっていることから、学校のことをよく知っており、非常に大きなメリットである。状況を把握した時に、直接各学校に知らせてもらえ、学校はアプローチを考えていける。このような形でうまく状況が好転したという例がいくつもある。

ホームフレンドも同様で、「若さ」は大変よい。若いエネルギーをもって子どもたちに接してくれるし、教員とは視点も違う。

ぜひ、今の制度を継続、場合によっては発展ということを視野に入れて考えてもらいたい。

- 家庭教育コーディネーター等設置事業の評価欄に「5市にとどまる」と書いてあるが、コーディネーターを設置しているのが5市という意味か。

→事務局：市としての独自に事業でやっているのが、5市ということである。

- ホームフレンドについては、学生が上手に話をして、ひきこもっていた子どもが学校に行けるようになったという話を多く聞いており、大変よいことだと思う。しかし、家庭教育コーディネーターから、もう少し人数が欲しいという話を聞く。コーディネーターは頑張っており、せっかくいい結果が出ているので、ホームフレンドの人数が増やせるとよい。

ところで、自分も以前、相談家庭を回っている時にとっても感じたことだが、父親というものの存在感が薄い家庭が多い。母親は頑張りすぎているが、父親が単身赴任や長期出張などで不在なので相談してもしょうがない、という家がとても多い。どっしり父親が頑張ってもらえるといいというのが単純な感想である。

家庭教育コーディネーターやホームフレンドはいい事業なので、もっと発展さ

せてもらいたい。

○ ホームフレンドの人数を増やせないのは、財政的な理由のためか。

→事務局：そのとおりである。

○ やってみたいと言う学生はいるのか。

→事務局：学生はたくさんおり、面接と作文で評価して選定している。

○ ホームフレンドは有償のボランティアか。

→事務局：月1,000円で活動してもらっており、旅費は別に出している。

○ 父親の存在感が薄いという意見があったが、父親に対する家庭教育講座などは行っているのか。

→事務局：職場内家庭教育講座で企業に講師を派遣している。家庭教育に力を入れている企業では多くの男性が参加している。

○ 子どもが18歳になると講演会等の情報が途絶えるという話があった。そこで、18歳になるまでに「学びネットあいち」を検索する習慣を付け、親も一緒に検索する習慣を付けることができれば、生涯情報が得られるのではないか。

自分もこのシステムのことを知ってから時々検索をするが、県のどのホームページにもある課題と同じく、情報は満載されているものの、なかなか更新されず、充実した内容になっていかない。委託予算の不足や仕事の忙しさで更新できないのが実状なのだと思う。ただ、本当に限られた人数で一生懸命やっている中では、このシステムは優れたものだと思う。

18歳までにシステムを検索する習慣を付けてアクセス数が増えれば、それが数値目標になり、数値目標が上がれば、予算化にもつながるという好循環になるのではないか。

また、30代というのは幼稚園の保護者の年齢であるが、子どもがかわいくて、父親がとてもしっかり行事に参画する。先日、流しそうめんをしようとして提案したところ、父親たちが竹藪を持っている人の所へトラックを借りて行き、竹を取って来た。大変な竹の節取りをしたり、やぶ蚊に刺されたりしながらも、父親たちは子どもの笑顔ですごくうれしかったということだった。竹は来年までは使えないにもかかわらず父親たちは持ち帰ったが、また近所の子を集めて「何かをしたい」という気持ちに火がついたのだろう。それが社会教育の始まりではないかと

思う。

小学生から概ね30代までずっとたどっていく中で、仕事で途切れるかもしれないが、親になってボランティアとして参画したことで復活して、それが子どもに還っていく。仕事で忙しい中やったことで子どもたちが喜んでくれた、その喜びが、父親としてのうれしさにつながる。そして、高齢者になって会社を退いた時に、自分が持っていた若い時の力を生かし直せないかという意識の醸成に向かわせるような、「社会の中で自分が今できることで人を喜ばせる」という気持ちをしっかり植え付けていくことが、幼稚園でできるPTA活動の中で大切なことだと思う。

- その年代年代でできることをやっていくことで、世代を超えていい循環ができると思う。

子ども・若者支援地域協議会はどの程度利用されているのか。

→事務局：県内ではまだ数が少なく、豊橋、蒲郡、春日井、北名古屋、一宮、名古屋の6市のみで、今後設置予定も3市くらいのみである。市町村に説明しながら、設置してもらい始めたところである。

- 名古屋市は区単位にあるのか。

→事務局：名古屋市教育館に1か所ワンストップのセンターが設置されている。

- これが地域にできていくと、困難を抱える子ども・若者たちに対する支援がワンストップででき、非常に有効ではないかと思われるので、ぜひ機能していくといい。費用など県から何らかの援助はあるのか。

→事務局：ネットワークを構成する職員の研修を行っている。

- 半田市には県立高校が5つ、県立特別支援学校が2つ、合わせて7つあり、高校生が地域の活動に積極的に参加してくれている。青年の力というのは地域の活性化に大きな役割を果たしていると感じる。就職を機に活動が停滞・終了してしまうということは、ある程度やむを得ない。ただ、そのような中でも頑張ってくれている人が多く、学んだことを次は教える側になっている人が結構いる。リーダー養成された人が、スキルアップして指導者になっていくことは本当に大事なことだと思っており、力を入れてやっていかなければと思う。

防災キャンプは、去年は小学校1校だったのが、去年の学校も含めて、新たに海拔が低い学校も行う。また公民館でも計画しており、拡がりが見られる。体育館に地域の人が避難してきて、実際に1泊の避難所体験をする。去年を契機にし

て「来年はぜひやりたい」と盛り上がっている。

不登校は、教育分野と保健福祉分野の連携は、大変難しい面がある。どうしても家庭に入らざるを得ない。親の考え方とか親の生き方を、地域の民生委員や児相とか医療機関などへつなげていく役割を果たす方が必要だと思っており、市では今年から、社会福祉士のソーシャルスクールワーカー1名に活動してもらっている。子どもを支援するためには、親や家庭を支援しなければならないケースが多いので、教育分野と福祉分野をつなぐ役割を担える人は、かなりの知識や経験が必要だと思う。

学生ボランティアも募集している。市内及び周辺在住の、将来教育や福祉の仕事がしたい学生で、不登校の子どもを支援したい人が20数名いる。市では、教員養成や福祉の勉強会など、一方的にサポートを要請するだけでなく、学生のサポートをこちらも行っている。

父親の存在について、いくつかの学校に「おやじの会」があるが、純粋に支援をしてくれて非常にありがたい。どんどん広がっていくといいと思う。

- 各委員の造詣が大変深く、自身の体験を踏まえた話で大変感心をしている。

今の若い人たちはどこかで役に立ちたいという気持ちがすごく強い。ボランティアについては、大学でも単位が認められており、自分自身を見直すという点においてさらに重視される時代になってきているのではないかと。高校生であればエコキャップなどになるが、自分の学校でも20周年ということでエコキャップ20万個集めるとしたところ、数がオーバーして大変なことになった。また、私学協会でも今年周年事業ということで、エコキャップをやろうとか、周辺の清掃をやろうとか、中には、実現しなかったが、不用の体育館シューズや自転車を発展途上国に送ろうとかいう意見が出た。

下の方から積み上げられたことが力になるということをして今日は勉強させてもらった。

- 老人福祉センターで、幼稚園・保育園の子どもたちが入所者と一緒に遊んだりしているが、施設の人の話では、そうするとお年寄りがとても楽しそうになって、効果的であるとのことである。しゃべれなかった人が、少しずつ手を動かしたり、歌ったりとても楽しそうに過ごすようになり、幼稚園・保育園とセンターの地域のコミュニケーションというのもいいと思う。ただ、園児たちはタクシーに乗ってやってくるようなので、料金を援助してもらえるといいのではないかと。